

ふっくりーの  
生活訓練  
色々な  
使い方がありま  
す。



具体例を紹介します。

Aさん 40代女性

統合失調症

グループホームに入居後、部屋に引きこもり人と話すことも難しいという状態で利用依頼があり訪問を開始。会話も難しいくらいの精神状態でした。

通所をしないとグループホームを退去しないといけなという事情が発生したため通所を開始。最初は座っているだけで誰とも話さないような状態でしたが、通所を続けるうちに笑顔も出るようになり、他メンバーと会話もできるようになりました。



Dさん 30代男性

統合失調症

退院してすぐに利用。

最初は体力もなく週1回通所できる程度でしたが、自分なりにスクワットなどをして体力をつけ、通所回数を増やしました。

途中、被害妄想が酷く通所できなかった時期もありますが、3年間自分のペースで通所し、B型作業所に移行することができました。

今では自力で通えるまでになっています。



他にも・・・

・生活訓練は利用期限があるため、その後の支援として地域活動支援センターやハローワークなど社会資源の見学に同行することありました。

・複数人とのコミュニケーションが苦手な方は、訪問サービスのみを希望され、2年間、週に1回訪問をするという利用の仕方もありました。

・一般就労や通信制の高校に通学しながら通所する方もいます。

そのような方の中には、プログラムには参加せず、スタッフと話をしたり、安心できる環境で勉強に取り組んだりされている方もいます。

Cさん 30代男性

軽度知的障害・発達障害

長年ひきこもり状態で社会経験が少ない方でした。能力的にはB型に通所することも可能でしたが、社会経験が少ない中で、その方にあった仕事内容を定めることや将来(親なきあとの生活)のことを考えて、生活訓練を利用。プログラムに参加され、基本的な調理や自分で選んで買い物をするなどできるようになりました。

他にも、卓球や塗り絵など好きなことを見つけ、今は毎日通所しています。



Eさん 40代男性

発達障害

他人とどのように関わればよいのかわからない、他人に批判されるのが怖い、という強い思いがあり他のメンバーの方とのコミュニケーションがありませんでした。そのため特定のプログラム(創作活動)に参加することを目的に通所しています。

1年ほど同じプログラムに参加される中で、まずはスタッフと関係を築くことができ、その後、他の方の作品に興味を持たれ、作品を通して会話が少しずつ増えてきています。

Fさん 50代女性

統合失調症

退院後すぐに利用。

最初は両脇を支えられて見学に来るなど、長い入院生活のせいで体力もありませんでしたが、通所し他のメンバーと交流するうちに体調のいい時期はおしゃれをしてきたり、メンバー同士で待ち合わせをして食事に行くなどできてきました。

途中、体調を崩して2度入院しましたが、最後の退院の後は穏やかに過ごすことができ、卒業後は一人で買い物に行くこともできるようになりました。